

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 五下』年間指導計画・評価計画(案)

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現(◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	時	学習活動	評価規準
10	-	五年生で学ぶこと				
10 ～ 11	10 (書く5)	一 多様な情報を読み、根拠となる資料にもとづいて、考えを深めよう	<p>■□多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。</p>			
10		世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう	<p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒B思判表(1)エ □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	1 2・3 4～6 7・8 9・10	<p>○単元名とリード文を読み、自然保護に対する自分の意見を意見文にまとめることについて話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>白神山地について知る。 1. 「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産に登録された経緯や、白神山地が作り出す計り知れない恵みについて知る。</p> <p>資料を読み、白神山地の課題を知る。 2. 白神山地の課題を知り、自分の考えをまとめる。 (1) 資料1～7を読み、自然保護にはさまざまな考え方があることを理解する。 (2) 斎藤さんの文章や資料1～7をもとに、それぞれの資料からわかることをノートに書き出す。 (3) 資料からわかったことについて、自分の考えとその根拠(もとになる資料)を書く。</p> <p>グループで考えを交流し、自分の考えを深める。 3. 考えを出し合い、グループで意見を交流することで、自分の考えを深める。</p> <p>自分の考えをまとめ、意見文を書く。 4. メモをもとに意見文を書く。</p>	<p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ)</p> <p>【態度】積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。</p>
10	4 (書く1)	「古典」を楽しむ	<p>△昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ること。 ⇒◎知技(3)イ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：昔の人の思いや考え方にふれ、今と昔の違いや共通点について調べたり、関心を高めたりする。</p>	1 2 3 4	<p>○単元とびらを読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 『竹取物語』『平家物語』『伊曽保物語』にふれて、その文章の一部を音読する。</p> <p>2. 日本の伝統芸能にふれ、演劇や絵本、マンガや映画など、多様な表現に生きている古典を集めたり読んだりして人々との関わりについて知る。</p> <p>3 「古典」にふれた感想を文章にまとめる。</p>	<p>◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。(【知識及び技能】(3)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>【態度】進んで昔から読み継がれている物語を読み、学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	2	かなづかいで気をつけること	△仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	1 2	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. p.28・29の例文を読み、どちらの文字を入れたらよいか話し合う。 2. 仮名遣いのきまりを理解する。 3. 仮名遣いのきまりに気をつけて、問題を解く。 4. 日常の言語生活における仮名遣いを振り返る。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題に沿って文を正しく書こうとしている。
11	1	漢字の広場 ④ 漢字の成り立ち	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 漢字の四つの成り立ちの種類について概観する。 2. 象形文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 3. 指事文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 4. 会意文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 5. 形声文字について理解し、ノートにまとめる。 6. 漢字辞典を利用して、形声文字の意味を表す部分(部首)と、音を表す部分を確認する。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字辞典で調べようとしている。
11	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 四年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	2	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11	6 (書く1)	三 表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう 雪わたり	□表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、自分と異なる意見や立場を大切にするとともに、自然の偉大さを知り、自然環境についての考え方を深める。	1 2 3・4 5 6	○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。 確かめよう 1. 物語の設定や出来事、変容について読む。 (1) 四郎とかん子がきつねに会えるのはどんな時なのか確かめる。 (2) 森の中で何が起きたのか確かめる。 (3) 物語の最初と最後の場面で変化したことを確かめる。 考えよう 2. やま場を探す。表現の工夫やその効果について紹介し合う。 (1) 四郎とかん子のきつねに対する考え方が変わった「やま場」の場面をさがす。 (2) 表現のくふうについて、思ったことや、どのような効果があるか考えたことを、紹介し合う。 *リズムのある表現 *たとえを使った情景描写 深めよう 3. 物語を読んで、人間ときつねの関係について考えたことをノートにメモし、話し合う。 広げよう 4. 『雪わたり』の魅力を発表し合う。 (1) 「雪わたり」の魅力を紹介する文章を書く。 (2) 他人の紹介文を読んで、着目点や表現のよさを見付ける。 ○学習をふり返る。	◎【知技】比喩などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見直しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。
12	5 (書く2)	「図書すいせん会」をしよう	□印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開く。 □推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章を書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	1 2 3・4 5	○推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開くという学習内容をとらえ、学習の見直しをもつ。 1. 推薦の仕方や好きな本について話し合う。 2. 推薦する本を決めて内容を考える。 3. 「図書すいせん会」の準備をする。 (1) 内容にあった効果的な方法を選ぶ。 (2) 推薦の文章を書く。 4. 「図書すいせん会」を開き、推薦の文章を読み合い、感想を伝え合ったり、友達が推薦した本を読んだりする。	◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に推薦の仕方を工夫して、学習課題に沿って「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1	6 (書く 6)	三 事実と意見を結びつけて書こう	■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。			
		提案文を書こう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1 2 3 4・5 6	○「学習の進め方」を読んで、活動のイメージを具体的ににつかみ、学習の見直しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 取材して、提案する事柄を決める。 組み立てよう 2. 提案文の構成を考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 読む人に提案したいことが伝わるように書き、推敲する。 伝え合おう(重点) 5. 提案文を読んだ感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bカ) 【態度】積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ、学習課題に沿って事実と意見を結びつけて提案文を書こうとしている。
2	2	和語・漢語・外来語	△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいについて考えることができる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1 2	○日本語には和語・漢語・外来語があることを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 1. 和語・漢語の由来と特質について理解する。 2. 外来語の由来の基本について理解する。 3. 外来語が、諸外国の文化の影響を受けて成り立っていることを理解する。 4. 和語・漢語・外来語から受ける印象のちがいや使い方の違いなどについて話し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいについて考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	1	漢字の広場 ⑤ 同じ音の漢字	△同音の漢字、同音異義語について理解する。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「強力」と「協力」が、それぞれどんな意味を表しているか、考える。 2. 同じ音の言葉である「関心・感心」などの意味を国語辞典で調べ、文脈にふさわしい熟語をあてはめたらよいか、話し合う。 3. 意味や使い方を漢字辞典で確かめて、「氏名」や「指名」などの言葉を使って文を作る。 4. p.85の下段の設問をノートに書き、上の欄内の漢字の意味や使い方を漢字辞典で調べ、それぞれふさわしい漢字をあてはめる。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
	1 (書く 1)	漢字の広場 ⑤ 四年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	10 (話す聞く5、書く1)	四 「まんがの方法」とその効果について、自分の考えをもとう	□文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。			
1	5 (書く1)	まんがの方法	△思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2・3 4 5	○単元名とリード文を読み、「まんがの方法」について話し合い、資料を有効に活用した発表を行うという学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. (1) まんがのおもしろさのひみつについて、考える。 (2) まんが、絵本、物語を比べて、まんがの特徴が何かを話し合う。 考えよう 2. 文章で紹介されているさまざまな「まんがの方法」が、書かれている段落や効果などをノートにまとめる。 深めよう 3. 「まんがの方法」を紹介する、筆者の手順や表現の特徴について話し合う。 広げよう 4. まんがに対する考えを、『まんがの方法』を読む前と比べ、その変化を文章に表す。 (1) p.90 に示された三つの構成で文章を書く。 (2) 書いた文章を友達と読み合い、『まんがの方法』を読む前と読んだ後の考えの変化や、まんがについて気づいたことなどを交流する。 ○学習をふり返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを理解し、学習の見通しをもってまんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。
1～2	5 (話す聞く5)	ひみつを調べて発表しよう	◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。 △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒◎A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒◎A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒A(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて、自分の考えを述べる。	6 7・8 9・10	○不思議だと思ふことからテーマを選び、調べて発表するという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. テーマを決め、伝えたいことの中心を考える。 (1) 発表の中心になる柱を決める。 (2) 内容にそった資料を集める。 組み立てよう(重点) 2. 発表の準備をする。 (3) 発表の仕方の工夫について考える。 (4) 発表練習を行い、発表の内容と方法を見直す。 話そう・聞こう(重点?) 3. 発表する。 ふりかえる・いかす 4. 自分たちの発表を振り返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】進んで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	時	学習活動	評価規準
2～3	1	漢字の広場 ⑥ 送りがなのきまり	△送り仮名について理解を深め、正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 二つの文にあるそれぞれの「集」の適切な送り仮名について話し合う。 2. 動詞や様子を表す言葉など、活用のある言葉の送り仮名について知る。 3. 名詞のように活用のない言葉の送り仮名について知る。 4. p.109下段の設問を解き、送り仮名のきまりについての関心を深める。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 (【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって送り仮名について理
3	1 (書く 1)	漢字の広場 ⑥ 四年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
3	5 (書く 1)	五 みすゞをさがし求めた筆者について、考えをまとめよう	□筆者の心情や考えを読み、自分の考えをまとめよう。 △文中での語句や係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒思判表C(1)エ □⇒◎C(1)オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2 3 4 5	○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。 確かめよう 1. みすゞをさがし求める筆者の行動から、その時の筆者の心情を考える。 (1) 「いつ」「どのようなこと」があったのかに気をつけて、筆者の「みすゞがしの旅」を表にまとめよう。 (2) (1) で作った表に、そのときの筆者の心情を書き加える。 考えよう 2. 1 で作った表をもとに、筆者の心情について、考えたことを話し合う。 深めよう 3. 筆者は、みすゞの作品の、どのようなところに心をひかれたのか、文章中に取り上げられている作品をもとに話し合う。 広げよう 4. みすゞをさがし求める筆者について、考えをノートにまとめ、友達と読み合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
3	2 (話す聞く1・書く1)	国語の学習 これまで から	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。 △文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア (◇話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ⇒3・4年 思判表A(2)イ)	1	1. 一年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「五年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。 2. 六年生になったら1. で出したことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。	【知技】話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(【思考力、判断力、表現力等】Aア) 【態度】積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。